

栽樹自嘲

袁

枚

七十猶樹栽  
古來死有りと  
雖も  
好在先知  
旁人痴を笑う莫れ

【作者】袁枚（一七一六～一七九七年）清朝の詩人。四十歳で官界から身を引き、南京の西にあつた小倉山に隨園と名付ける園を築い

て悠々自適の生活を送つた。世に隨園先生と呼ばれた。八十二歳で没

【語釈】\*自嘲…自分で自分をあざげること。

\*旁人…傍らの人。

\*好在…生きながらえること。

\*先知…人に先んじ

てしる。

【通釈】七十の高齡になつてなお木を植えた。その愚かさを笑わなしてくれ。昔から人は必ず死ぬことは誰でも知っているが  
幾歳まで生きるか誰も知らないのだ。

この秋は雨か嵐か知らぬども 今日のとめの田草とるなり

二宮尊徳